

インパクト志向金融宣言

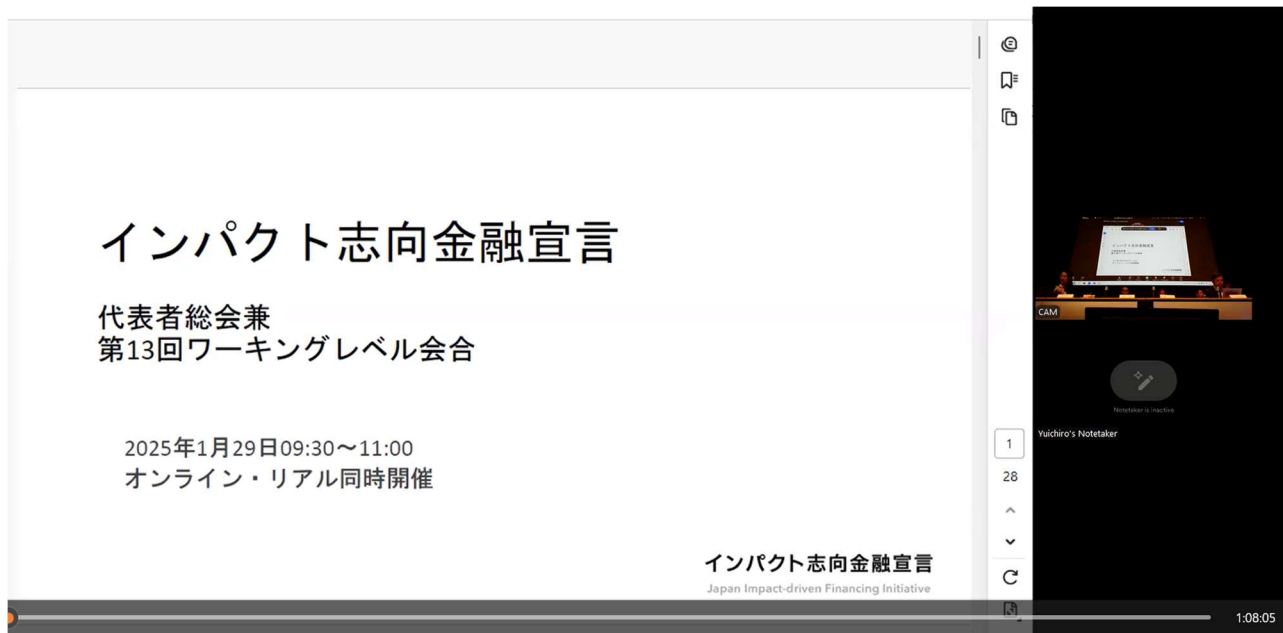
Japan Impact-driven Financing Initiative

第4回代表者総会兼第13回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第13回ワーキングレベル会合が2025年1月29日（水）9:30~10:40に、対面（丸の内コンファレンススクエア）・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から対面で54名、オンラインで43名、計97名が参加しました。

第4回代表者総会兼第13回ワーキングレベル会合は、以下のアジェンダで決議・報告や議論を行いました。

- 定足数確認・議長選出
- 新規署名機関の紹介
- （第1号決議事項）第15条2項に基づく運営規程の改正
- （第2号決議事項）第15条4項に基づく運営委員の選任
- （第3号決議事項）第15条9項に基づく年次事業報告（プログレスレポート）の承認
- （第1号報告事項）第32条4項に基づく監事報告
- （第2号報告事項）中期計画の策定プロセスについて
- （第4号決議事項）第15条7項に基づく年間事業計画の承認
- （第5号決議事項）第15条8項に基づく予算の決議
- （第3号報告事項）分科会活動報告
- （第4号報告事項）その他の報告事項
- 今後の予定、事務局連絡



● 定足数・議長選出

決議にあたり、出席署名金融機関数が、リアル出席 25 機関、オンライン 26 機関、委任状 18 通で出席機関数が 69 機関となり、総署名機関数 77 の過半数を超えているため、定足数を満たしていることを確認しました。

議長は推薦により、馬場氏（三井住友信託銀行）と吉村氏（みずほフィナンシャルグループ）が選出されました。

● 新規署名機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降に新たに署名した機関にご挨拶頂きました。1月29日時点で署名機関数は計 85 社となりました（署名金融機関 77 社、署名協力機関 8 社）。以下の機関よりご挨拶を頂きました。

【新規署名機関】

（9月1日付）株式会社ゆうちょ銀行（前回欠席だったため今回ご挨拶）

（12月1日付）三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

【署名協力機関】

（12月1日付）株式会社 QUICK

● 決議/報告事項

事務局より、以下の4点に関する決議および報告に関する説明を行いました。

（第1号決議事項）第15条2項に基づく運営規程の改正

- 過半数以上の賛成により可決

（第2号決議事項）第15条4項に基づく運営委員の選任

- 過半数以上の賛成により可決

（第3号決議事項）第15条9項に基づく年次事業報告（プログレスレポート）の承認

- 過半数以上の賛成により可決

（第1号報告事項）第32条4項に基づく監事報告

- 質疑なし

（第2号報告事項）中期計画の策定プロセスについて

（第4号決議事項）第15条7項に基づく年間事業計画の承認

- 過半数以上の賛成により可決

（第5号決議事項）第15条8項に基づく予算の決議

- 過半数以上の賛成により可決

質疑

- 予算の全体の金額について自走化 PT の議論では、必要額を 2500 万円と算出していたが、今回収入の見込みを踏まえて本予算を確定したものと推察している。一方で、インパクト投資の潮流が加速する中で、今後各分科会でもアウトプットを出していこ

うとすると、印刷費など含めて費用はかかることが想定される。この辺りはどのように想定されて予算を策定されたのか。

- 基本的には会費の中でやりとりをしていく想定で考えている。なお、印刷についても最上級のものでなくとも、今回のプログレスレポートのように、一部事務スタッフで製本するなど手作業も含めながらできるだけ費用をかけずに進めていきたい。どうしても必要な場合は、予備費 60 万円を活用したり、資金用途を定めた上で、どこかのから協賛をいただくことも検討したい。
 - 予算をいかに抑えていくか、収入をいかに増やしていくか、そのためにインパクト投資の裾野をどう広げて署名機関を増やしていくことも重要。
- 12 月継続意思アンケートで明らかになった、宣言から脱退をする可能性がある機関について、何か対策ができることはありそうか。
- 脱退される署名機関のほとんどがベンチャーキャピタルであり、その理由が本宣言への参加に避ける時間的な余裕がないということ。これを踏まえると、無理に引き止めることは難しいと考えている。逆に大手の署名機関については脱退の意思を示している機関はほぼない。

(第 3 号報告事項) 分科会活動報告

【地域金融分科会】

- ✓ 昨年一年は、ポジティブインパクトファイナンス (PIF) について 60 社を対象に調査を行い、共通 KPI の策定を試みてきた。今後この調査結果を基にタスクフォースを形成し、成果物の策定に向けて議論を進めていく。

【ソーシャル指標分科会】

- ✓ 社会課題に関する指標について、事例集をまとめることを目標に活動を進めている。前回の WL 以降は、ドリームインキュベータ様、ティーロープライス様から事例を紹介していただき、非常に参考になった。引き続き事例紹介を通じて事例集の作成を進めていきたい。

【VC 分科会】

- ✓ 去年は裾野の拡大を目的に、ガイドラインなどを参考にしながら IMM のセオリーを勉強し、その後は 8 社分の事例紹介を通じてさらに基礎的な概念を蓄積していった。
- ✓ これを受けて、今年は高度化・深化にフォーカスをしていきたい。具体的には、スタートアップや LP などの対峙するステークホルダーとの議論を行い、VC として行うべき IMM について深めたり、インパクトと経済性の相関に関するディスカッションや、インパクト報告規範に関する学びを深める会も設けていきたい。
- ✓ 運営としては、毎月ではなく、開催の頻度を減らし企画の時間を十分に設けた上で、年で 8 回の分科会を企画している。

【AO/AM 分科会】

- ✓ 今年は事例共有を通じて、各社が課題に対してどう取り組んでいるのかを理解を深めていった。また、この分科会から発展し、上場企業における企業価値とインパクトに関するアライアンスも発足したことも一つの成果。
- ✓ 今年については、インパクト投資に関する関心の高まり、インパクトコンソーシアムの立ち上げなどの外部環境の変化を踏まえて、明日分科会にて今後深掘りしていくテーマについて議論をしていきたい。

【融資・債券分科会】

- ✓ 今年は、インパクトファイナンスとしてのデットとはどのようなものかについて議論を進めている。商品ごとにあるべきインパクトファイナンスのあり方について議論を進めており、まずは PIF、GSS に関する議論を行っている。また、エンゲージメントに関するアンケートを企画しており、現状地域金融分科会の皆様にも回答のご協力のご依頼をさせていただいているが、他の分科会についても協力をお願いしたい。

【ICEA】

- ✓ インパクト創出企業（上場企業）に対する投資を推進することを目的として活動をしている。そのために、インパクト創出企業の価値創造プロセスを理解し、インパクトと企業価値の関連性を整理し、これらを踏まえてインパクト創出企業における開示のあり方についても議論を進めていく予定。
- ✓ これまでに 3 回の会合を実施し、論点がクリアになってきた。今後は、インパクトと企業価値の間にあるドライバーを分析していくことを検討している。

（第 4 号報告事項）その他の報告事項

- セミナー・イベントの予定
- 出版企画について
- 第 22 条第 8 項に基づくアドバイザーの指名（リクルートホールディングス大野様）
- 運営規則の制定
- IMPACT SHIFT 2025(3 月 1 日～2 日)

● 今後の予定、事務局連絡

今後の WL 会合の予定

- 2025 年 4 月 24 日 (木)
- 2025 年 7 月 24 日 (木)

以上

資料 1 : 第 13 回ワーキングレベル会合当日資料

資料 2 : 議案書

資料 3 : 20250108_インパクト志向金融宣言 監査報告書

資料 4 : 20250120_事業計画

資料 5 : 20250120_中期計画策定の進め方

資料 6 : 20250129_運営規程案 (0129WL 会合提示用)